

水俣病認定は早急に

山中「告発する会」に約束 新長官

環境庁が発足した一日朝、東京・千駄ヶ谷の同庁舎に「東京・水俣病を告発する会」の若い男女約二十人が黒い旗やのぼりを掲げて押しかけ、玄関前で山中新長官に水俣病の早期認定問題で直訴した。

同会の説明によると、水俣病と認定されないことを不服として九人の患者が起こした行政不服審査請求事件が、環境庁の発足により同庁に移管されたので、改めて環

境庁に対し水俣病患者の早期認定を要求することが直訴の目的だという。

午前十一時すぎ、総理府で辞令の交付を受け、新庁舎に到着した山中長官が玄関に真新しい「環境」の看板を掛けると、同会メンバーは玄関前まで詰めかけ、口々に「環境庁は直ちに水俣病患者の認定をせよ」「環境庁のギマン性を暴露するぞ」と叫んだ。

これを聞いた山中長官はツカツカと歩み寄り、にこやかに「ご苦労さん。なにごとですか」と聞いた。同会の代表が「認定問題は一年も待たされており早急に決定を

出すべきだ」と伝えると、山中長官は「人権の問題でもあるので、人間尊重の立場から早急に取り組みたい」と約束した。

次いでこの事件の代理人である後藤孝典弁護士が文書で正式に会見を申し入れた。これについても山中長官は「承知した。後日、日を決めて会いたい」と答えた。

この間、約十分。山中長官のスケジュール表にない型破りの行動は、同長官を迎えようとして玄関前に並んでいた約五十人の同庁幹部、職員にとっては遺表外のことだった。